

4 事業トピックス

(1) 図書館システム

ア 旧システムの課題

横浜市内の全館をオンラインで結んだ図書館情報システムが平成6年度に本稼働して以来8年が経過しました。その間の情報技術の進展はめざましく、パソコンが一般家庭にも普及し、インターネットで世界各地の情報を入手することがごく普通に行われるようになりました。そんな中、図書館情報システムの情報提供の質の向上を要望する声は、年々、強まっていました。

また、技術の進展は、本市のような大規模図書館においても、運用コストの高額な大型汎用コンピュータを使用しないシステム構築を、可能としていました。

平成14年度のシステム更新は、情報化への対応と運用コストの削減という二つの課題を解決することを目標に、実施することになりました。

イ システム更新の考え方

システム更新にあたっては、短期間での実施と経費の圧縮をはかるため、既存の図書館システムパッケージを最大限活用することにしました。

委託業者は、システムパッケージが本市図書館業務への適応度が高いこと、膨大な資料データの安全性・確実な移行ができること、運用コストが安価なシステムであることなど、総合的な観点から評価するため公募型プロポーザル方式で選定しました。

ウ 更新作業

平成14年7月から、選定された業者と更新に向けた作業を開始しました。半年という限られた時間の中での作業となったため、パッケージのカスタマイズは最小限に留め、本市図書館の運用にあわせるために作りこみが必要な選定・発注・整理系システムの開発に重点を置きました。

一方、ハードウェアの調達についても、並行して作業を進め、10月の市報に公告を掲載、11月には入札を行いリース業者を決定しました。

新しい利用者検索機



利用者検索機のモニターはタッチセンサー式なので、キーボード入力はもちろん、画面にソフトキーボードを表示させて、手で触って入力することも可能です。検索画面は共通なので、タッチ式でも複数の言葉からの検索（掛け合わせ検索）や、条件を絞り込んでの検索など高度な検索ができるようになりました。

また、より高速なデータ通信を実現するため、各図書館へ光ケーブルを収容する作業を 11 月から 12 月にかけて行いました。区総合庁舎に入っている図書館を除き、ほとんどの図書館で新たに引き込む必要があったため、外壁に穴をあけざるをえなかった図書館もあり、予想以上に難航しました。

エ 旧システムから新システムへ

新システムのための職員研修については、中央図書館の会議室に環境を整備し、12 月の約 1 か月をかけて実施しました。市立図書館の全職員が受講し、主に窓口系システムの研修をしました。

臨時休館期間の設定を含む最終的なスケジュール調整にあたっては、市民への影響を最小限に留めるため、臨時休館は 3 日間としました。具体的には、平成 14 年 12 月 21 日(土)から、5 グループに分けて順次、システム更新にともなう臨時休館を設け、旧システム機器の撤去、ケーブルの敷設、新システム機器の設置を行いました。また、新システム本稼動までは、オフラインで使用可能な携帯端末で貸出・返却処理を実施し、開館しました。

なお、新システムへのデータ移行は、異なる業者間での移行のため、システム更新に際してもっとも重要視した点でした。事前に何度かテスト移行を行い、万全を期した上で、12 月 23 日(月)の業務終了後に抽出し、年内に新システムへの登録を実施しました。データが正常に移行されたことを確認の上、携帯端末による貸出・返却情報の更新を行い、オンライン稼動に備えました。

オ 新システムの稼働

平成 15 年 1 月 15 日(水)、新システムが本稼動し、貸出・返却処理を含め、全ての処理をオンラインで開始しました。

その後、2 月 3 日(月)からは、インターネット蔵書検索システムも新システムへ移行させ、市民から要望の多かった、貸出中かどうかといった資料の動態情報を提供できるようになりました。

高度な情報検索の実現

検索項目	検索値	一致条件	論理式
タイトル	横浜	を含む	AND
タイトル	建築	を含む	AND
出版社		を含む	AND
テーマ		を含む	AND
テーマ(人)		を含む	

検索 取消

予約検索項目 (10件)

ISBN

予約公開日 (10件)

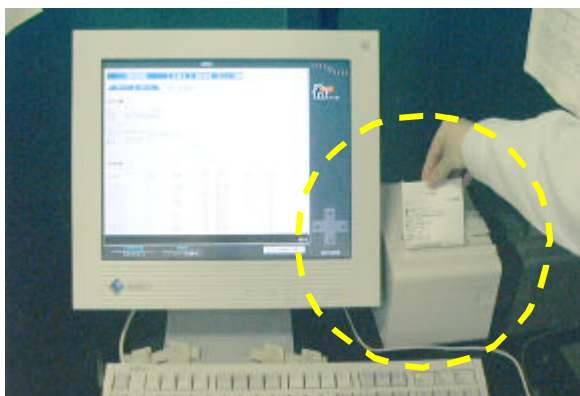
予約開始日: 2002 1月 ~ 2002 12月

予約種別: 一般 児童

予約種別: 図書 雑誌

掛け合わせ検索や、絞り込み検索、また、前方・中間・後方一致検索や、and・or・not 検索など、検索条件をいろいろ指定できるようになりました。

平成 15 年度中には、目次や本の内容の情報も検索対象にできるようにするなど、よりの確な資料提供が可能となります。



他にもいろいろ進化しています。



検索結果の資料情報(書名・著者・出版社等)や、自分が今いる館にあるのか、本棚にあるのか貸出中なのかなどを、レシートペーパーに印刷できるようになりました。

英語で案内する検索画面もできました。

(2) 自主企画事業

図書館では、市民のさまざまな生涯学習ニーズに応えるため、図書館の持つ資料や施設などの資源を活用し、情報を編集・発信することによる「自主企画事業」を展開しています。

自主企画事業では、市役所の他の部署や区役所、関連機関との連携に努めているほか、生涯学習グループの事業に資料や情報の提供を行ったり、共同で企画運営するなど、市民との協働についても取り組み、それぞれの地域に根ざした事業を実施しています。

【平成14年度実績】

区 分	具 体 例	延実施回数	延参加人数
地域情報の発信・提供	講演会、展示会	5回	230人
生涯学習活動の推進・支援	講演会、講習会、セミナーなど	41	531
児童・生徒・幼児の読書・学習活動支援	講習会、業務体験、おはなし会、映画会など	591	14,607
地域機関・団体との連携協力	講習会、展示会、事業協力など	46	2,139
学校連携事業	見学・体験学習受入れ、学校訪問	292	14,027

平成14年度は、市民の情報活用能力の向上を支援することを目的として、各図書館で「IT講習会」を実施しました。インターネットの活用方法をはじめ、パソコンの利用についての初歩的な講習を中心に行い、子どもから成人まで幅広い市民の参加がありました。

子どもの読書活動を支援する取り組みについては、図書館においても、子どもむけにおはなし会などを行うほか、地域でボランティアとして読み聞かせなどの活動を行いたいという市民を対象とした講習会なども実施しています。このような地域での市民の活動について、平成15年度に「読書ボランティア調査」を行い、図書館としての支援のあり方を検討します。

また、中央図書館では、元禄15年(1702)の赤穂浪士による吉良邸討ち入りから300年にあたる昨年12月に、「忠臣蔵」に焦点をあて、所蔵する事件の関係資料を活用した本の展示会を開催しました。

[忠臣蔵三百年・読み継がれた元禄事件]

展示資料の中心となったコレクションは、故亀田威夫博士(亀田病院院長)の収集によるもので、総数約850点に上る忠臣蔵関連資料です。寛延元年(1748)、竹本座から刊行された浄瑠璃本『再板 仮名手本忠臣蔵 一幕~十一幕』をはじめとする江戸期の和書のほか、英語・フランス語・ドイツ語・イタリア語などに翻訳された外国語図書も含まれています。

この亀田コレクションに、中央図書館がいままで「横浜資料」として収集してきた蓄積を加え、展示会を構成しました。

展示に際しては、事件の概要、江戸期の資料による関係人物紹介、横浜ゆかりの作家による小説化された事件、居留地文化から生まれた日本紹介としての忠臣蔵、子ども向けに脚色された事件、を大きな柱として立てました。

本の表紙や挿絵を利用した画像に文字解説を加えたパネル展示のほか、現物資料も展示するとともに、近年の関連資料も会場に集めました。



おもな展示資料は、つぎのとおりです。

歌川芳虎画『忠臣義士銘々伝』（江戸時代後期の着色木版折れ本、横浜浮世絵でも著名な芳虎の手になる絵）

大佛次郎『赤穂浪士』上・中・下巻、改造社、昭和3年～4年（ほかに『東京日日新聞』（挿絵は岩田専太郎））

吉川英治『新編忠臣蔵』新潮社、昭和11年（挿絵は大佛作品と同様、岩田専太郎）

ディキンズ“Chiushingura or the Loyal League” ロンドン、1875年（横浜の英字新聞“The Far East”に連載（1874～5年）された作品の単行本化、『仮名手本忠臣蔵』初の英訳）

メースフィールド“The Faithful” ロンドン、1915年（のちに、小山内薫が「戯曲忠義」として和訳）

神保朋世／絵・小泉長三／文『四十七士』大日本雄弁会講談社、昭和11年（「講談社の絵本」創刊時の一冊）

うしおそうじ『まんが四十七士』集英社、昭和28年（雑誌『おもしろブック』12月号の付録）

(3) 庁内情報拠点化事業

庁内情報拠点化事業は、市役所内部での図書館への認識を高め、図書館サービスの充実につなげること、市役所が行う市民サービスを支援することにより、図書館サービスの拡大を図るなどを目的として、平成11年度からスタートした事業です。

具体的には、各局区の日常業務や新たな事業の企画立案等のために必要とする情報への、レファレンスや資料提供などを行っています。

また、各局区の事業への協力として、各区福祉保健センターで行っている乳幼児健診で配布する「乳幼児向け絵本リスト」の作成協力などを行いました。

【実績】

区 分	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	対象局区数	利用実績	対象局区数	利用実績	対象局区数	利用実績	対象局区数	利用実績
資料貸出	34	660冊	39	878冊	34	1,345冊	39	1,211冊
レファレンス受付	35	297件	39	336件	34	277件	38	334件
ブックリスト作成等	4	4件	2	2件	-	-	2	2件